

水俣病もテーマに

富山で地方自治研集会

【富山】「地方自治を住民の手」に基本テーマに、第十二回地方自治研究全国集会在十日から四日間、日程で富山市で開かれた。自治労（栗山益夫委員長）が中心になって、地方自治行政の問題点と課題を交流、討議する全国集会で自治体の職員、革新市長、議員のほか水俣市から水俣病患者家庭

互助会の訴訟派代表や新潟、四日市の公害病患者ら全国から約四千三百人が参加、第一日は正午から富山市体育館で全体会議を開いた。

栗山委員長をはじめ総評、社会、共産両党、革新市長代表など来賓のあいさつのあと、小山内事務局長が「第十二年次自治研究活

動の特徴と問題点および全国集会の運営」について報告した。ついで大阪市立大の宮本憲一教授が「七〇年問題と自治体」と題して講演し、第一日を終わったが、特に栗山委員長はあいさつのなかで「近年中央支配が強く地方自治は失われていく傾向にある。このへ

んで自治体とは何かということも、真剣に考え、地域住民のための地方自治を確立しなければならぬ」と強調した。

同集会は十一日から公害など十六の分科会に分かれ各県提出のレポートについて討議するが、レポートは合理化、社会保障、保健衛生、公害、教育、住民組織など計三百二十六件にのぼっている。